サーファクタント蛋白質 D	7314600
	担当部署
SP-D	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→免疫・自己抗体→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	特記事項なし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	冷蔵
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部				
測定時間	当日中～翌日				
生物学的基準範囲	設定なし				
臨床判断値	109.8ng/mL 超				
基準値				単位	ng/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	109.8	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因	特記事項なし				
臨床的意義	サーファクタントプロテインD（SP-D）は、コレクチンファミリーに属する肺サーファクタントタンパク質の 1 種である。 肺サーファクタントは、主に肺胞 II 型細胞およびクララ細胞で産生され、肺胞表面を覆っている肺胞上皮被覆液の表面張力を抑えて肺胞の虚脱を防止することによって安定した呼吸を維持する他、気道-肺胞系の生体防御機能を担っている。 SP-D の分子量は約 43kDa で、N 末端側にコラーゲン様ドメイン、アミノ酸からなるネック領域をはさみ、C 末端側には C 型レクチンドメインから構成され、トリプルヘリックスを形成した三量体からなるサブユニットが 4 個集合した十二量体の十字形構造を形成している。 SP-D は、肺に障害がおこると肺組織から循環血液中に漏出するため、血中濃度は肺組織の障害の程度を反映すると考えられ、肺胞蛋白症、間質性肺炎などの補助診断に有用な肺特異的診断マーカーとして血中濃度の測定が行われている。 また、SP-D は間質性肺疾患の病勢の把握及び予後予測因子としても有用であるとされている。 ナノピア SP-D 試薬添付文書				